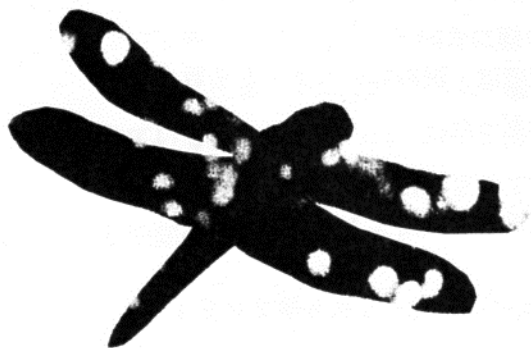
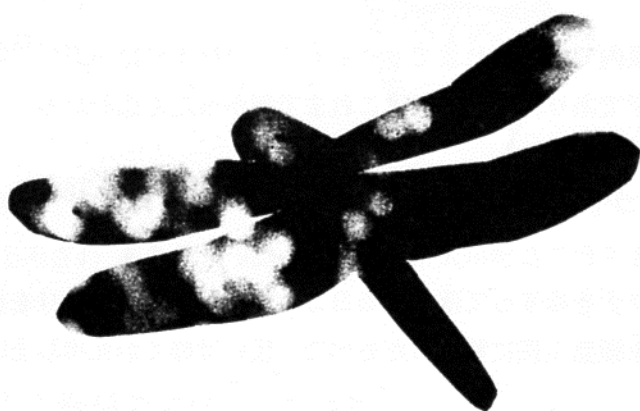


翔

百万石蝶談会

No. 140

October 1999



輪島市でヨコヤマヒゲナガカミキリとアカアシクワガタを採集

松井 正人

本県ではブナ帯の昆虫として知られる、ヨコヤマヒゲナガカミキリとアカアシクワガタを石川県輪島市にわずかに残るブナ林で採集したので報告する。

◆ヨコヤマヒゲナガカミキリ

一昨年、ライトトラップによって1♂を得た地点（松井、1997）の近くに、ヨコヤマヒゲナガカミキリのものと思われる脱出口がいくつかあるブナがある。根本から数本立ち上がり、何本かは道路上に張り出していた。この張り出した木をゆすったところ、まず1♂が落下し、別の張り出した木をゆすったところ1♀が落下した。いずれも舗装道路上に落下したので、発見は容易だった。この日の輪島市は、最高気温が32.5度と大変暑く、しかも採集したのは正午頃と暑い盛りだったので、この1ペアに満足し、それ以上は探さなかった。

県内では、これまでライトトラップにより白山周辺で多数の本種が得られているが、全て♂であり、♀の記録はこれまで無かったと思われる。

ヨコヤマヒゲナガカミキリ 1999年8月8日 輪島市宝立山 1♂1♀ 松井正人

ブナをゆすって落下するヨコヤマヒゲナガカミキリを採集する方法は、現在米沢市に住む永幡嘉之氏に教わったもので、氏には厚くお礼申し上げる。

◆アカアシクワガタ

午後4時頃、鉢伏山のピーク付近で目の前に飛び出した1♂を採集した。本種は、主に白山を取り巻く市町村で採集され、能登地方における記録はこれまで無かったと思われる。筆者の知る範囲では、金沢市の記録（蝶談会編集部、1986）が、これまでの最も能登よりの記録ではないだろうか。

今回は尾根で飛行中の個体を採集したが、白山周辺では、沢沿いのヤナギから数多く観察している。また、体長は32mmと小型で、内歯は2本だった。

アカアシクワガタ 1999年7月20日 輪島市鉢伏山 1♂ 松井正人

《 参考文献 》

蝶談会編集部（1986）短報4．翔(58):5.

松井正人（1997）輪島市宝立山でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集．翔(128):6.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

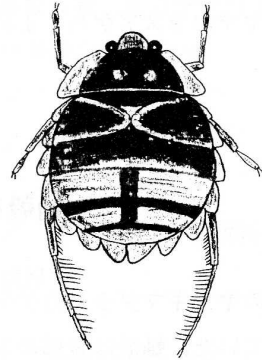
小松市のナベブタムシ採集記録

富 沢 章

ナベブタムシ (*Aphelocheirus vittatus* Matsumura) は「石川県の昆虫 (1998)」によると、県内では鳳至郡門前町久川と石川郡鳥越村大日川で記録があるにすぎない。筆者は水生昆虫の調査の際、小松市において本種を採集したので報告する。

1999年6月5日 石川県小松市中ノ峠 (標高130m) 幼虫成虫多数

採集地は梯川支流の滓上川上流部で、生活排水の混入はまったくなく、低山地としては水がきれいな川幅2m程度の小溪流であり、イワナも生息している。当地の本種は門前町久川の生息地と同様、溪流の所々に堆積している礫の中から多数見いだされた。同様な溪流を調査すれば、本種の生息地は、案外多いのかもしれない。



《 参考文献 》

石川むしの会・百万石蝶談会 (1998) ナベブタムシ. 石川県の昆虫 (石川県): 89.

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

小松市と白峰村でエゾゼミを採集

松 井 正 人

能登地方に広く分布するエゾゼミを、小松市と白峰村のスギ林で採集した。

エゾゼミは、高い木のでっぺんで鳴いていることが多く、声は聞こえても姿を見るのはなかなか難しい。エゾゼミの太さと同じ位かそれより細い幹に止まっている姿をやっと見つけて観察していると、下向きに動いたり、上向きに動いたり、鳴きながら動いている。下向きに止まっている時に、木を蹴ったりして驚かすと、ビックリして落ちてくると言われているが、落ちるのは一瞬で、直ぐ体勢を立て直して飛んでいく。

金沢市以北では各地で観察されているが、それより南では小松市大杉の記録(武藤, 1990)しか知られていなかった。

1999年8月25日 石川県小松市新保 (alt. 570m) 1♂ 松井正人

1999年8月25日 石川県石川郡白峰村白峰 (alt. 670m) 1♂ 松井正人

《 参考文献 》

武藤 明 (1990) 昆虫数種の生態と分布資料. とつくりばち (57): 2-4.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

蛹の羽化殻をつけた蝶 2 題

嵯峨井淳郎

カラスアゲハを採集に河内村板尾の吸水ポイントを訪れた際に、蛹の羽化殻を背面に付着させたままの蝶、2種を採集したので報告する。

1999年5月22日 石川県石川郡河内村板尾

スミナガシ 1♂ 新鮮個体（胴体背面に蛹の頭部抜殻付着）

ミヤマカラスアゲハ 1♂ 尾状突起両方破損（頭部背面に抜殻付着）

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

蛹殻を付けたヤマキマダラヒカゲ

松井正人

多数のヤマキマダラヒカゲが飛翔する中から、無造作に採集した3頭の内の1頭に蛹殻が付いていた。蛹殻は腹部の3節で、これが蝶の腹部に付いていて、ぐるりと腹部を取り巻いていた。採集時は気付かなかったが、展翅の際に羽を広げ気が付いた。後翅の鱗粉は蛹殻の幅で完全にはげ落ちているので、蛹殻はかなり負担になっていたと思われるが、飛翔する姿からは全くわからなかった。

蝶を採りだしてそろそろ35年、何頭採集したか見当もつかないが、蛹殻を付けた蝶は初めてお目にかかった。

ヤマキマダラヒカゲ 1999年8月28日 石川県羽咋郡志雄町当熊 1頭 松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

蛹殻を付けたオオミドリシジミ

生田省悟

少し古い話になるが、蛹殻を付けたオオミドリシジミを採集・保管しているので報告する。

オオミドリシジミ 1994年6月12日 石川県金沢市坪野 1♂ 生田省悟

坪野キャンプ場付近の小灌木を叩いた際、ポトツという感じで下草に落ちてきたもの。妙な気がしたのでよくよく見ると、腹部が蛹殻で完全に被われた個体だった。後翅は左右ともかなりの程度に鱗粉が剥離し、肛角から尾状突起にかけての部分も破損していたものの、残りの部分に羽化不全の痕跡はまったく見られなかった。

《いくた しょうご 〒921-8125 金沢市平和町3-1-22-10》

春のツマグロヒョウモン調査時に採集した昆虫類

嵯峨井淳郎

1999年は、春先よりツマグロヒョウモンの調査に何回か石川県内の発生地を訪れ、成果については、翔139号に報告した。その折に採集・目撃確認したツマグロヒョウモン以外の昆虫類について報告する。「目撃」の記述がないものは、採集と判断してもらいたい。

◆ 金沢市額谷

1999年 5月19日 モンキアゲハ 3♂目撃、カラスアゲハ♂多数目撃、ルリタテハ 1♀、
ウスバシロチョウ 2♂多数目撃、キチョウ多数、
ムカシヤンマ 1♂

1999年 5月22日 ヒメウラナミジャノメ♂♀多数、コジャノメ 2♂、
モンキチョウ 1♀、ツバメシジミ 1♂、
ヨコヅナサシガメ 1頭、ムカシヤンマ 1♂、オオオサムシ 1頭目撃

1999年 5月23日 ダイミョウセセリ 2♂、オオオサムシ 1頭目撃

1999年 5月30日 ヤマサナエ 1♂

◆ 金沢市大額

1999年 5月15日 ベニシジミ 1♂、ツバメシジミ 1♂、ルリシジミ 1♀、
モンキアゲハ多数目撃、カラスアゲハ多数目撃

1999年 5月19日 ヒメウラナミジャノメ♂♀多数、ウスバシロチョウ 2♂

◆ 能美郡辰口町仏大寺

1999年 5月23日 モンキアゲハ 1♀目撃、カラスアゲハ 1♂目撃、
ウスバシロチョウ 1♂

1999年 5月29日 ミヤマカワトンボ 1♂ 1♀

◆ 小松市遊泉寺

1999年 5月23日 ヒメウラナミジャノメ♂♀多数、コチャバネセセリ 1♂ 1♀、
シオヤトンボ 1♂、カワトンボ 1♂

1999年 5月29日 ウスバシロチョウ 1♂、モノサシトンボ 1♂

◆ 石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所周辺

1999年 5月15日 コジャノメ 1♂、ウスバシロチョウ多数目撃

1999年 5月23日 ウバタマムシ 1頭

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷 3-18-2》

エゾゼミの森

松 井 正 人

エゾゼミの声を初めて聞いたのは、小学校の頃だったろうか。場所は金沢市のキゴ山で、子供会の行事の時だったのか、林間学校の時だったのかは、はっきりしない。憶えているのは、木の高いところで鳴いているので網は届かず、木を蹴ったら何頭かに1頭は落ちてきたことぐらい。2度目に聞いたのは、押水町宝達山ピークのブナ林だったと思うが、キゴ山からは10年以上も経っていた。宝達山の記憶にしても20年以上も前の事なので、違っているかもしれないが、これらの記憶から「エゾゼミは、山地のセミで雑木林かブナ林で鳴いている。おそらく本来はブナ林のセミだろう。」と、思い込んでいた。

ところが、宮武・加納（1992）では、「マツ林やスギ・ヒノキ林に多い」とか環境庁自然保護局（1997）では、「ブナなどの広葉樹にも生息しますが、むしろアカマツ、モミなどの針葉樹林に多く、スギ・ヒノキの植林地でも見ることができます」とある。

エゾゼミはいったい何処で鳴いているのだろうか。石川県で鳴いていた場所を、森別に紹介してみたい。

◆ブナ林

加賀地方のブナ林はあまり調査していないが、吉野谷村瀬波、尾口村鶺ケ谷のブナ林で鳴いていた。能登地方のブナ林は狭いブナ林ばかりで、津幡町三国山、押水町宝達山、鹿島町石動山、輪島市高洲山、輪島市鉢伏山、輪島市宝立山、と調査した総てのブナ林で鳴いていた。また、能都町瑞穂大峰神社社叢のモミ・ブナ林でも鳴いていた。

◆雑木林

能登地方には、平地から山地にかけて広く分布し、ほとんどこの森で鳴いていた。加賀地方では、金沢市戸室山・キゴ山周辺、鳥越村鳥越城址、小松市大日川ダムで鳴いていた。

◆スギ植林地

小松市大日川ダムから奥の小松市丸山から新保にかけて、尾口村一里野、尾口村鶺ケ谷、津幡町大窪、津幡町河合山では、何十年も経て大きく成長したスギ林で鳴いていた。また、白峰村白峰、珠洲市宝立山では、植えられてから日の浅いスギ林で鳴いていた。

◆その他

金沢市キゴ山の植えられてから日の浅いヒノキ林、自生なのか植林なのかわからない津幡町河合山の年数の経ったアカマツ林で鳴いていたが、同時に周囲のスギ林や雑木林でも鳴いていた。

《 参考文献 》

宮武頼夫・加納康嗣（1992）検索入門 セミ・バッタ．215pp．保育社．

環境庁自然保護局（1997）'95 身近な生きもの調査●調査結果最終版●．33pp．

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

1999年新穂高オオイチモンジ採集記

笹川 忠志

1999年7月16日に、岐阜県古城郡上宝村神坂（新穂高）の蒲田川左俣谷にて、オオイチモンジを採集したので報告する。

当日は前日迄のうっとうしい梅雨空の中、早朝4時に起床し、未だ暗い間に上宝村へ出発した。途中、富山までの北陸道で、東の空が薄赤く染まり太陽も少しであるが顔を出した。しかし、相変わらずどんよりとした空模様であった。富山インターを降り、ルート41で一路岐阜県へ向かった。神岡の分岐後、更に山間部に入ったところで山の上部は霧に包まれ、天候は悪くなってきた。しかし、既の上宝村も近くなってきたので、戻ることもできず「奥飛騨温泉郷」へと車を進めた。平湯への分岐を直進し、新穂高温泉を過ぎ、中部山岳国立公園線へ入り、穂高ロープウェイの看板を横目に村営の駐車場へ車を停車させた。山々の峰は濃霧に霞み、小雨まじりのドンヨリとした朝であった。まだ午前6時だったので駐車場で7時まで仮眠をした。

7時、曇り空でも雨の降る気配が無くなったので、左俣林道を徒歩でワサビ平まで登り始めた。梅雨明けしていないのと金曜日と言う事もあって、通常のように登山客であふれかえる様な事はなく、非常に静かな林道であった。ただし、左俣川の下流域での砂防ダム工事（治山工事）で、ブルドーザやトラックが頻繁に通っているの、しばらくの間下流はわずらわしいのではないかと思った。穴毛谷の分岐から林道は上流域となり、工事もないのでまた静かな林道となった。ちょうど7時半であった。この頃から西の空に青空が見え、雲の薄い所から朝日が漏れてきた。「これは天気が良くなるかも知れない」と思いながら、更に歩を進めた。この時間帯であれば、林道脇のブナやミズナラの樹木から、アイノミドリやジョウザンミドリが飛び出す筈なので、ビーティングをしながら観察していたが、全く飛翔しなかった。金沢の医王山とは「訳が違う」のであろうか？ そうこうしている内に、昨年まで盛んに工事をしていた地点に到着したが、既に綺麗に工事が終了して静かな溪谷になっていた。また大崩落のあった現場も、治山工事が終了しており綺麗な景観になっていた。自然の力は偉大で、工事していた時は赤土や岩がゴロゴロしていて、更にブルドーザやショベルカーで荒らされていたので心配であったが、工事終了に伴い赤土の表面には草が生え出し緑の草原になろうとしていた。数年後には、ベニヒカゲやクモマベニが舞うかも知れないと感じる程であった。

ワサビ平に到着したのが8時。まだ雲も多く、日差しが差し込んだと思うとまた曇るといった状況であった。ただ気温が高く外気の感じも柔らかい感覚で、生物にとって快い感覚の朝であった。早起きの虫や蝶は既に行動を開始していた。ワサビ平周辺にはヒメシジミが無数に飛び、ヒヨドリバナやウドの花には鈴なりになっていた。昨年は、季節の進行が異常に早く、この時期にはボロボロのヒメシジミしか飛翔していなかったが、今年は「普

通の年」なので綺麗な個体が多かった。このころのヒメシジミは、モザイクや雌雄型が比較的多く確認されているので、一応良く観察し綺麗な個体を選んで採集した。オオイチモンジが好きそうな河原や湿地や道端を注意しながら、「ワサビ平小屋」の周囲800メートル前後を往復し採集を続けた。天候はやっと安定し青空から太陽が左俣を照らし、初夏の左俣の新緑が輝きを増していった。コムラサキがテリトリー行動を始め、吸水の為に地面に降りてきた。昨年よりは個体数が少ないが、綺麗な個体であったので数頭採集した。その中の1頭は、後翅表面の外縁の黄紋が、一様に連続して帯状になった個体で、「藤岡図鑑」にある信州タイプと言う若干の異常型であった。コムラサキと戯れている間に、小さなヒョウモンがユックリと飛翔しはじめた。コヒョウモンである。コヒョウモンは、鮮度の良い個体は仲々得難いので、今回は綺麗な個体なら採集するつもりで数頭採集した。コムラサキやコヒョウモン、そして綺麗なイチモンジやヒメシジミ等々を採集している時に、フツと「今日、オオイチモンジが採集できる。それも1頭ではない」と言う予感が何回も脳裏をかすめ、更に、この予感は具現化する筈だ！と言う気持ちになっていった。

9時頃だったと思うが、コヒョウモンを追いかけてワサビ平から林道を少々戻りながら「オオイチ、オオイチ、オオイチ・・・」と唱えて歩いていた。その時、ワサビ平小屋の軽トラックが林道を登ってきた。私を見つけて徐行しながら通過した。「車の往来があるならチョットまずいかな」と思い、軽トラックが来た方向に視線を投じたその瞬間！黒いカゲが、フワフワと舞っていた。明らかにイチモンジよりもデカイ。まぎれもないオオイチモンジが吸水の為に路上に降り立っていたのである。本州のオオイチモンジは格調の高いチョウであり、大変貴重で、個体を確認できる個所はほとんど採集禁止でもある。オオイチモンジを確認した私は、オオイチモンジが路上に静止するのを待ってネットインしたのであった。ほとんどのチョウ屋がオオイチをゲットすると凄い感激に浸るらしいが、いざ採集してしまうといつも「デカイ、イチモンジチョウだな～」と言う程度になってしまう。

さて、今年の左俣は律義に季節を刻んでいる様で、去年はオオイチがいる、ヒメシジミはボロ、オオゴマシジミは出始め、クモマベニは降りて来る、ベニヒカゲがガンガン！コヒョウモンは終焉、ミヤマカラスは出始め、アイノミドリは発生初期、ジョウザンは発生末期、と言うメチャクチャな状況であったのだが、今年はおオイチがピークを過ぎ、ヒメシジミが適期、コヒョウモンが出始め、ヤマキマダラヒカゲが綺麗な個体、当然ベニやクモマベニは未発生、オオゴマシジミも未発生、と言う正常な状況であった。

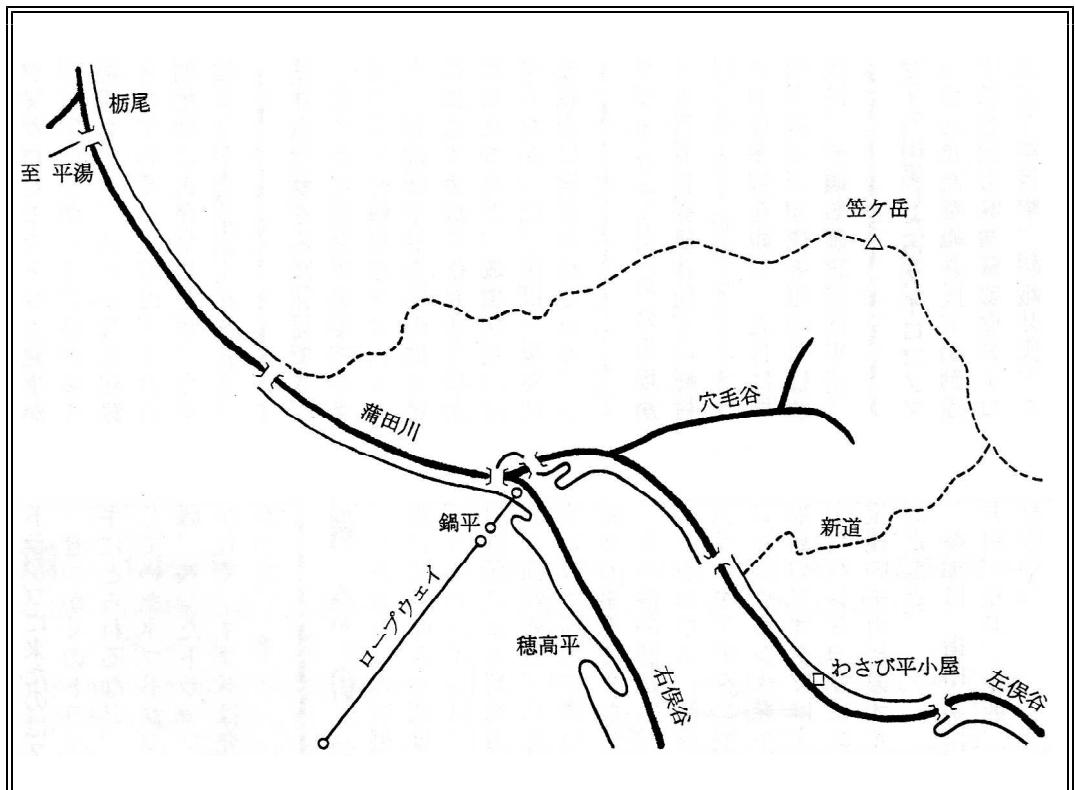
林道を往復していると、登山客とも多くすれ違おうし、ワサビ平小屋の人もベランダで本なんかを読んでいるので、時々不思議な眼差しで見られてしまう。その様な時の最大の保身術は、「笑顔で挨拶」。そう、微笑み返しである。ネット保持者が私独りであったので、余計愛想よくしておくのは必要である。オバタリアンは「あんた、何が採集できんの」とか「ここで採集しても良いんか」等々、余計なお世話や妙に人なつっこく良く話しかけて

くるのである。でも、このオオバタリアンの御好意を無下にすると、後でむごいしっぺ返し
 がくるから、充分注意して欲しい。

そうこうしている内に、「笠ヶ岳」の登山道（新道）の分岐の「水場」に、良くオオイ
 チが出現するとの話を思い出した。「登山客が多く、往来も激しいからオオイチは近づか
 ないだろう」と考えていたが、北海道のオオイチや上高地のオオイチは、結構人間臭いと
 ころ（小屋とか）世俗っぽいところに来るとい言葉を思い出し、捜索に行ったのであ
 る。「水場」に付いてしばらくポーとしていたら、はずれの方でまたもや黒い影が・・・
 まぎれもなくオオイチモンジ。「コイツこんなところで何やってんだ」と思いながら、吸
 水で路上に静止したところをネットイン。2頭目のオオイチモンジであった。蝶談会の席
 上でオオイチモンジの話題になった時の指田氏や吉村氏の発言を思い出した。「本州のオ
 オイチモンジは、採集できて1日せいぜい1～2頭が良いところだね・・・」と。時刻
 も正午を廻り、余り天候も良くならず、オオイチモンジが現れることも無いと思い、後は
 目立つチョウをチョコチョコ採集しながら下山した。

翌日も良い天気（午前中のみ）だったので再挑戦したが、この日は昨日の様な「予感」
 が脳裏をかすめない朝だったので、オオイチモンジはその勇姿を見せてはくれなかった。

オオイチモンジ 1999年7月16日 岐阜県上宝村神坂蒲田川左俣谷 2♂ 笹川忠志



《ささかわ ただし 〒921-8155 金沢市高尾台1-6-4 パトリア202》

米国から日本語のEメール

ニューヨークの久慈氏からEメールが届いたが、中身は今までと全く同じ日本語で、アドレスもJ Pで終わっている。かつがれているのかかと思つたが、N T Tアメリカを介すると、こうなるらしい。

Ichiei Kuji

10 River Road, Apt. 4P

Roosevelt Island, NY10044

オオムラサキが三角紙に産卵

金沢の日吉宏朗氏、戸室山でオオムラサキ♀をゲット。展翅をしよう三角紙を開くと卵がポロリ。展翅した翌日は腹端に卵塊があつた。腹端の卵は孵化しなかつたが、三角紙の卵は順調に育っている。

イカリモンのDNA分析

鹿児島、宮崎、石川と特異分布するイカリモンハンミヨウ、宮崎産はちよつと違つと野中氏が以前言つていたが、DNA解析がはじまる様で、今後がおもしろい。

なんとラオスに里帰り

もうすつかりラオスが板に付いた指田氏、里帰りと称してまたもやラオスにわたつた。今度の目的はテングとか。

門番とはじつこんの間柄

細沼氏、蛹粉トラップをセツトしたりして、釈迦林道にシコシコ通つている。門番のおじさんとも顔なじみになり、車が近づいただけでゲートが開くそうだが、ここまでにならないと、ほしい虫は採れない。

転び蝶屋

蝶屋が別の虫に転んだ話は良く耳にする。おそらくは、目を引く蝶で虫界に入り、いろんな虫を知ることによって更に心惹かれる虫に転じたものと思われる。しかし中には蝶一筋、蝶いのちとかたくなに守り続ける蝶屋もいる。ところがそんな希有の蝶屋が最近甲虫やセミにうつつをぬかすようになってきた。

ツマグロヒヨウモン大発生か

去年にも増して記録が多く範囲も広く、♀もかなり記録されている。去年は、十月の羽化期に大発生したが、今年は大発生が予想される。

オオムラサキ未だ発見できず

にわかには再発見の期待が高まつていた輪島のオオムラサキ、石畑氏や日吉氏の地元組に加えて金沢の松井氏も捜索に当たつたが、成虫発見には至らなかつた。後は、越冬幼虫調査に期待が持たれる。

クジャクチョウの発生地か

九月五日嵯峨井氏、白峰村は三ツ谷で新鮮なクジャクチョウ多数を観察。九日に柳の下でドジョウを狙つた松井氏は、一頭も確認できず。

今年も出ましたウスイロコノマ

またまた嵯峨井氏、出勤途中に金沢市味噌蔵でウスイロコノマを目撃。嵯峨井氏、このところ、すこぶる好調。

トラップに来たのはスジばかり

せつかくのトラップがタヌキにとられるなど、苦心惨憺していたネプトクワガタ調査隊、残つたトラップもスジばかりで、ネプトは発見できなかった。

例会の記録

八月五日(木)城南管工二階にて八時から開催。

今回のメインは、生田、吉村両氏による菊水方面クロシジミ探索報告。八月に入るとオロロの猛攻に遭い、車から降りる事もできなくなつた。

その他の話題は、パキピドとトラニウス、河原山のオオムラサキスギタ二型、ツマグロヒヨウモン大発生の兆し、福島のアオタマは大当たり、ホソハンミヨウにニンマリ、宝達のデカピカオオセンチ、などなど。

参加は、指田、笹川、生田、井村、松井、中西、細沼、吉村の八人。

【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃべりの動き

松田氏は北海道の丸瀬布へ七月下旬、マックロオオイチモンジで有名な丸瀬布へ向かった松田氏、普通タイプは撮影したものの、マックロは発見できず。それにしても、蝶はやっぱり沖繩に限るとこぼしていた。

新穂高左保でオオイチ三頭 笹川氏、新穂高は左保でオオイチモンジ三頭をゲット。七月十六日に二つとおいしい思いをした氏は、味が忘れられずに何度か通い、一♀を追加した。

真夏の四百頭マーキング 秋に群れ飛ぶアサギマダラのマーキングは、涼しくもあり数もこなせておもしろい。しかし、真夏となると蒸し暑い上にアサギの数も少なく、

なかなか数がこなせない。このような中、輪島市内で四百頭マーキングが達成された。今年には類い希な猛暑が続いていたにもかかわらず、地の利を生かした日吉氏と松井氏の連携が実を結んだ。

新石川動物園でクマゼミが辰口町に移転オープンする新石川動物園、十月の開園目差して急ピッチで準備が進められている。園内はかなり移植が目立ったので、来年はクマゼミが鳴くかもしれない。

あこがれ惚れ込み蝶リスト 矢田氏、県内のあこがれ蝶リストを作って、一種ずつ落としていく。今年にはムモンア力を落とし、来年はゴマを落とすとか。このリスト、ゴマを入れて十一種が並んでいる。

エゾゼミプロジェクト 蝶屋の松井氏、最近セミに取り付かれています。春はハルゼミに狂い、今度はエゾゼミに狂い出した。このプロジェクト、輪島の日吉氏、小松の富沢氏や矢田氏等が引き込まれたらしい。

アツチコッチでイカリモン調査 イカリモンハンミヨウを調べている徳本氏、石川、宮崎、鹿児島と実地検分しながら生活サイクルの比較をしている。鹿児島では暴風雨の中、ズブ濡れになって調査を敢行し、帰路の飛行機の中でやつとパンツが乾いたとか。

蝶の酔っぱらい 輪島の日吉氏、オオムラサキトラップにブランデーを用いたところ、クロヒカゲ、ヤマキマダラ、ルリタテハなどが集まった。近づくと人の気配で素早く飛び立つルリタテハが、ヨタヨタと飛び、直ぐ近くにしがみついたとか。

翔 140号
 Tobu 1999年10月1日発行
 百万石蝶談会
<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
 金沢市大場町東871-15 松井方
 ☎920-3121 ☎076-258-2727
 郵便振替 00750-8-562
 印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
 TEL参加もOKです (076-244-3318)

目 次 (140号)

松井正人：輪島市でヨコヤマヒゲナガカミキリとアカアシクワガタを採集	1
富沢 章：小松市のナベブタムシ採集記録	2
松井正人：小松市と白峰村でエゾゼミを採集	2
嵯峨井淳郎：蛹の羽化殻をつけた蝶2題	3
松井正人：蛹殻を付けたヤマキマダラヒカゲ	3
生田省悟：蛹殻を付けたオオミドリシジミ	3
嵯峨井淳郎：春のツマグロヒョウモン調査時に採集した昆虫類	4
松井正人：エゾゼミの森	5
笹川忠志：1999年新穂高オオイチモンジ採集記	6
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10